



「江戸時代の百科全書編纂者 山片蟠桃」

本年度最後の「ぶらり加古川」は、世界的に著名な人物“山片蟠桃”を探ります。

『^{ゆめ}夢の代』という百科全書をご存知でしょうか。全12巻という膨大なボリュームであり、天文、歴史、哲学、経済などあらゆる分野にまたがる当時の学問体系を集大成したものです。

高校日本史の教科書にも掲載されるぐらい有名なものです。その百科全書を著したのが、播磨国印南郡神爪村（現在の高砂市

米田町神爪^{ばんとう}）出身の山片蟠桃です。長谷川小兵衛の次男として生まれ、芳秀といました。のち、大坂の豪商・升屋に奉公する身となり、経済的な才能・手腕が認められ、18歳で升屋別家を継ぐことになり、さらに本家当主が幼いので本家番頭を担うことになります。ちなみに升屋は山片家と呼ばれていたこと、番頭をしていたことをもじて、山片蟠桃の名前となったといわれています。



大阪府では、大阪が生んだ世界的町人学者である山片蟠桃の名にちなむ国際文化賞として「山片蟠桃賞」を設け、日本文化を海外に紹介し国際理解を深めた著作及びその著者を顕彰しています。

大阪府文化問題懇話会委員を務めていた作家の司馬遼太郎さんの提唱により、昭和57年度に設けられました。

その世界的に著名な人物が加古川に隣接する高砂出身であることは、誇りに思うべきではないでしょうか。